

設及改良同一萬糸合せて一萬九千餘糸に達して、建國前
の既存道路三萬七千糸の半數に當る道路が新設又は改良さ

れたわけになるのであるから、相當面目を一新して滿洲國
開發原動力として多大の効果を擧ぐるに至るであらう。

古渡橋を語る

茨城縣廳土木課

霞ヶ浦に注ぐ河川の内、小野川と云へば南方に於ける雄
大なるものであるが、その邊一帯は平地のことであるし、
地面は低いから、一朝霞ヶ浦が氾濫すれば田も畠も烟も野も町
も一體の大平原と化してしまふのである。

その小野川の然も霞ヶ浦への出口と云へば、もう霞ヶ浦
の小波を受ける所謂水郷であつて、春は翠の柳、秋はかれ
すゝきの穂先から筑波山を眺める風情は亦格別である。指
定府縣道阿波木原線はこの湖岸を走つて稻敷郡鳩崎村、古
渡村入會のところで横過する。

此處は昔から名高い船着き場であり、渡船場であつた。

昔は殷賑を極めた相であるが、時代の變遷と共に水運が陸
運に變り、調落の一途を辿つて行つた。しかし歴史は亦繰
り返して陸運と軍事で再興の兆が現れてゐる。又渡し場と
しては「十三塚碑文」の語るやうに根本六左衛門がこの橋
畔で男らしく死られてゐる。

舊橋は明治三十九年十二月に架設せられた木造桁橋で、
橋長八二・〇米、有效幅員二・九米であつた。その後大正
十五年と昭和五年とに殆んど架換に等しい程度の大修理を
なし、今日に至つたのである。

新橋は昭和十一、十二年度の繼續事業として計畫され、

國庫の補助を得て改築に着手したところ日支事變勃發し、鐵材、木材は高騰より統制へと移行した爲、其の購入には、特に骨を折つたものであつたが、此程漸く完成するに至つたことは欣快に堪へない。

橋長一二〇・〇米、有效幅員五・

五米、工費八六、四〇〇圓、起工昭

和十一年十二月、竣功昭和十四年二

月、この間に有名な茨城水害に見舞

はれたことは申すまでもない。

(池内技師)

十三塚碑文

建武中興以降南風競ハズ順逆所ヲ異

ニシ天運日ニ蹠マルノ秋 吉野朝廷

ハ春日顯信ヲ鎮守府將軍ニ任ジ以テ

東國ヲ徇ヘシムル顯信即チ 義良親王ヲ奉ジ父准后親房ト
共ニ東向伊勢灣ヲ解纜ス途上適颶風ニ會ヒ 親王ハ伊勢ニ

アリ不在ノ爲難ニ遭ハザルヲ潔シトセズ進ンザ賊將ヲ追蹤

シ小野川々邊ニ到リ切ニ僚友ニ殉ゼン事ヲ詣ビ竟ニ又研フ

親房等ノ船ハ當國東條ヶ浦ニ漂着セリ大正五年十月二十五

日發見ノ高田村椎塚諏訪神社供養古碑「一品義良王奉命藤

房募兵東條莊薨宮元出雲贈糧以罪

於乘濱名士十三人受斬罪闕所横死

各位靈供養爲堅通三界橫拔九居弘

和元酉極月日 善光寺六代永山
善吉寺十代但阿 下役

舍人」ニ據レバ乘濱ノ土民ハ當時

藤原藤房ノ倡義募兵ノ擧ニ感奮蹶

起シテ咸王事ニ勤勞ス就中郷内六

ヶ村ノ名主ハ兵ト糧トヲ募リツ、

神宮寺阿波崎城ニ據ル皇軍ヲ極力

應援セリ賊佐竹義篤衆ヲ特ミ殺到

スルニ及ビ募兵孤城遂ニ滔ルヤ十

三名主ヲ現十三塚ノ地ニ斬殺ス阿

波崎村ニ根本六左衛門ト云フ名主

ル古渡橋橋畔ノ所謂ホイホイ地蔵ハ實ニ此ノ勤王ノ義民六

左衛門慰靈ノ記念堂ナリト云フ當年ノ尊皇思相亦知ル可キ

ニアラズヤ此ノ悲壯ナル殉難決實ハ抑モ現代ニ何物ヲ寄與

スルカ滔々タル世相ノ浮薄ヲ慨シ民心ノ輕佻ヲ嗟ク者誰レ

カ斯ノ純眞ノ忠烈ニ泣カザル者アランヤ」

千葉縣に於ける昭和十二年 水害對策應急事業

後 藤 季 總

一 千葉縣水害の概況

昭和十三年に於ける本縣下數次の風水被害は激甚を極め、縣民の蒙りたる損害は實に龐大なる金額に達した。即ち六月二十七日から七月四日に至る間に於いて、縣下を襲ひたる豪雨は平均五〇〇耗以上の雨量を示し、殊に東葛飾、印旛、香取等北部地方に在つては六二八・六耗といふが如

き驚くべき雨量を示したのである。其の結果利根、江戸の

二大河川をはじめ各河川及印旛沼、手賀沼、長沼等は一時に増水氾濫して、未曾有の大浸水となり、道路、堤防の破損崩壊、耕地關係施設の破壊等、慘憺たる状態を現出した。農耕地の浸水面積に至つては、實に五萬町歩に亘り、晝夜兼行、排水に努力を傾注したるに拘らず、減水の状態甚だ緩漫にして、冠水二十日以上に及ぶ地方も少からず、稻作